

文献紹介・自著を語る

『地域での日本語活動を考える：多文化社会 葛飾からの発信』

野山広・山田泉・帆足哲哉・福島育子・横山文夫編著

(2022 年 10 月、ココ出版、2023 年 6 月国立国語研究所所長賞受賞)

野山 広 (国立国語研究所)

本書は、「草の根の住民活動が共生社会づくりに果たす意義を提起する」(p.iii)ことを目的として発信されたものです。具体的には、1990 年代以降、東京都葛飾区の地域住民や関係者によって、地域での日本語学習支援活動や活動が実践されてきたわけですが、その背景、経緯、現状を踏まえながら、その課題、展望に言及しています。各章においては、他の地域での多様な実践活動や、その実践を支える理論的背景も踏まえつつ、関連した分野・領域の 13 名の実践者や研究者によって編集されています。

1989 年から 90 年にかけて実施された入管法の改正・施行以降、外国人が数多く居住する集住都市・地域(群馬県、長野県、静岡県、愛知県、岐阜県、三重県などの主に日系南米人が多数居住していたところ)はもちろん、東京都内の葛飾区においても、外国籍住民の急激な増加に伴い、地域日本語活動に関わるさまざまな実践が行われて来ました。その葛飾の地域における多様な実践活動を支えた多くの人々のうちの何人かが(編著者の中の二人:横山文夫氏と福島育子氏含めて)、本著の中で実践報告をしながら、多様な観点から省察を行っています。

本書の中でもいくつかの章の著者が(憤りや怒りも含めて)言及していますが、本来ならば国がその役割を果たす必要がある外国籍住民(子どもも含む)に対する言語保障としての日本語教育やことばの教育の実践、展開を、地域住民がボランティアとして担う状況が長く続いていることに対する複雑な想いを、章ごとに伝えています。また、日本語やことばの教室・交流できる場所をセキアベース(安心できる居場所)として捉え、多文化社会の構築、つまりは、社会変革・改革、アドボカシー(特定のテーマに関して、社会的少数者の権利を保護したり、彼らの思い代弁したりする実践や仕組み・制度・法律等の構築を目指す実践)の活動に向けた決意、覚悟の発信をしようとしています。

葛飾区をはじめ、さまざまな地域の実践活動とその省察を踏まえ、上記のような実践者、関係者の思い、決意、覚悟を発信しようとする本書の構成は、全体を第 I から IV 部に分けて、全 12 章と

5 編のコラム、付録資料からなっています。

ここでは紙幅の都合もあるので、主に(本書の中核部分と捉えられる)第 I 部の内容について詳しく紹介します。

第 I 部では「外国籍住民に対する地域での学習支援の実践—東京・葛飾の取り組みを主として」というテーマに関して、以下のような報告、省察がなされています。

第 1 章 社会教育としての地域日本語活動(I) 横山文夫

第 2 章 社会教育としての地域日本語活動(II) 横山文夫

第 3 章 葛飾区の国際化と「地域の日本語教室」 福島育子

第 4 章 小・中学校への日本語学級の設置—ボランティアと行政(教育委員会)との連携を通して 浦山太市

コラム アタッチメント理論の概略 横山文夫

この第 I 部の第 1 章から 4 章の内容は、本書の中の中核部分とも捉えられるわけですが、1990 年代以降の約 30 年間の葛飾区での地域日本語、つまり日本語の学習支援に関係した諸活動の報告、省察となっています。この報告、省察をする中で、以下のような重要な出来事と、その経緯、展開に触れています。この間約 4 半世紀に渡り、外国籍住民やその子どもたち(児童生徒)への日本語教育の公的保障とその学びと交流の場(セキアベース)の確保、及び、その法制化の実現に向けたロビー活動、アドボカシーの活動等を粘り強く行い続けました。こうした実践活動や関係者の尽力の成果として、2019 年 6 月には「日本語教育の推進に関する法律(日本語教育推進法)」が超党派の議員立法として遂に成立しました。

○1995 年 日本語・識字問題研究会の設立

○2001 年 「東京宣言」(p.20)の採択

採択の中では「多文化・多言語社会の創造」「日本語学習に対する公的保障」「外国人の子どもの教育保障」の実現を目指しています。

○2002 年 日本語フォーラム全国ネットの設立

↓

○2011 年 「神戸宣言」

↓

○2019 年 「日本語教育の推進に関する法律」

上記の動向の中で、並行して、葛飾区でも大きな動きがありました。この動き、つまり実践の展開は、地域日本語に関する活動を通して明確となった諸課題の解決を求めている地域住民の声を自治体に対する政策提言へと繋げています。地域の学校や教育委員会、自治体を巻き込みつつ、ひいては国を動かしていこうとするような思いや覚悟の基盤となる省察の重要性、提言を実現していく場合に羅針盤となるような事例となっています。

○2013 年「国際化、グローバル化する社会を生きる子どもの育成について～違いを豊かさに」
(p.307)という提言を葛飾区教育委員会に提出

この提言は、葛飾区という地域の現場で、外国人児童生徒への日本語学習支援という実践活動を行ってきた地域住民の声や思いを、提言としてまとめ、政策提言としてだけでなく、子どもたちの学びを保障するための政策・施策の展開を実現へと導いたものです。この提言を踏まえ、葛飾区では、教育委員会を通して、以下のことが実現されていきました。

- * 日本語初期集中指導センター「にはんごステップアップ教室」の開設
- * 小中学校への日本語コーディネーターの配置
- * 日本語学級の設置

第Ⅱ部では「外国籍児童生徒に対する教室での学習支援の実践」というテーマに関して、以下のような報告、省察がなされています。

第5章 兵庫県神戸市の国際教室での実践 村山勇

第6章 三重県内小中学校における実践とラテンの子どもたち 藤川純子

コラム エルクラノ事件から学んだこと 藤川純子

第Ⅲ部では「NPO 法人による子どもサポート」というテーマに関して、以下のような報告、省察がなされています。

第7章 「たぶんかフリースクール」の現状と課題—外国にルーツを持つ子どもたちの 学び
栢木典子

第8章 不登校児童生徒の学習権保障—フリースペースの活動から 青島美千代

コラム 多文化な子どもが花開く時—発達障害が心配された子どもの学習や行動の変化

近田由紀子

第Ⅳ部では「地域での日本語活動を考える視点」というテーマに関して、以下のような報告、省察がなされています。

第9章 基礎教育の保障と第一言語／第二言語としての日本語教育の重要性—実践事例や政策的観点からみた課題と展望 野山広

第10章 共生社会における子どもの権利—子どもの権利条約と関係的な子どもの権利 伊藤健治

第11章 75億の移民世界 春原憲一郎

第12章 日本社会のグローバル化と多文化共生の課題 山田泉

コラム 近年の「貧困」に関わる問題から地域の外国人の生活を考える 帆足哲哉

コラム 「移民排斥」とは何か 山田泉

これらの執筆内容の中で、コラム「多文化な子どもが花開く時—発達障害が心配された子どもの学習や行動の変化」と第11章「75億の移民世界」は、実は、最終的に執筆者の遺稿となっていました。本著を手にとることがありましたら、まずは上記の執筆者である近田由紀子氏や春原憲一郎氏の実践者としての思いを感じて頂けたら幸いです。その他、こうした論考に関連して、以下のような[付録]が掲載されていますので、上記の実践報告、省察内容を理解するにあたり、参考にして頂けたらと思います。

- 1) 多文化共生社会の実現とそのための教育の公的保障を目指す神戸宣言
- 2) 葛飾区教委への提言 国際化、グローバル化する社会を生きる子どもの育成について—違いを豊かさに(提言)
- 3) 日本語教育の推進に関する法律

文献紹介の最後に、紹介者自身の実践者としての思いを語っておきたいと思います。

地域における多文化社会の構築と日本語教育の推進には、この紹介中で既に述べていますが、粘り強い実践活動、住民の声を踏まえた課題、提言の作成、提出、提言内容実現するためのロビー活動、アドボカシー活動、そして、最終的には、地域住民の理解と協力が不可欠だと思います。実は、紹介者自身も、江戸川区における生涯学習の場(セキアベースとしての対話の場・

空間)の提供の一環としての実践活動(江戸川総合人生大学地域デザイン学部国際コミュニティ学科のコースデザイン、カリキュラム作成、授業等)に携わっています。例えば、国際コミュニティ学科では、地域の在住外国人をとりまく言語・生活環境の現状、課題などを学ぶと共に、多文化に対しても理解を深め、共生のあり方についても対話、協議、省察を行っています。この人生大学で2年間の課程を修了した卒業生=OB/OGの多くは、葛飾区での実践活動同様、江戸川区で必要と考えられる多様な分野で、人生大学で出逢った仲間と協働しながら、地域の課題の解決に向けて粘り強く実践活動を続けています。その活動は、地域の輪を広げるだけでなく、本書の執筆者の実践の多くがそうだったように、自分自身の生甲斐づくりや使命感(ミッション)にも繋がっていきます。こうした連携の拡充が、やがては、江戸川区はもちろん他の区や市町村でも、実践における協働の深化を通して地域の学校や教育委員会、自治体、多数者側の住民巻き込みつつ、共生社会の構築に向けて羅針盤となるような実践事例の蓄積、報告、省察、発信という好循環へと連鎖していくことが期待されます。

参照したサイト

<https://www.sougou-jinsei-daigaku.net/department/international-community/>

(2025年1月30日確認・参照)